第一級の人物たれ　―グローバル社会で活躍できる人材の育成―

校 長　井家上　哲史

本校は、1912 年に旧制明治中学として創立されました。初代校長の鵜澤総明は、当時の生徒たちに「第一級の人物たれ」と語りかけました。一世紀前の社会と現代とは学校や教育を取り巻く環境は大きく異なります。この 110 年の間に起こったもっとも大きな変化は、地球空間の時間的縮小です。交通機関や情報伝達手段の発達により、これまで何日も要していたものが、瞬時に接することのできるような時間距離になりました。遠い外国で発生した出来事をインターネット等を介してほぼ同時刻に見聞きすることができます。私たちの生活は否が応でもグローバル化しているのです。

こうした時代に活躍する人材が備えるべき資質は何でしょうか。私は、アメリカの大学での在外研究や国際協力の一環として東南アジア諸国の大学での教鞭を通じて、国際社会で活躍するためには、何をどのように観察して問題を発見するのか、その問題の経緯や歴史を理解し、正確なデータを集めて分析、その結果をどのように表現し、相手を説得していくのかという能力の有無が問われることを学びました。もちろん、その際には国際共通言語として英語が求められます。つまり、「英語ができる＝グローバル人材」ではなく、相手が誰であろうと、相手が納得するレベルで説得することができるか否かがグローバル人材なのです。そのためにはコミュニケーションツールとしての言語の他に、徹底した基礎学力が必要ですし、その上に高度な専門性が求められるのです。

明治中学・明治高校は、明治大学直系の付属校です。一定基準を超えれば全員が、明治大学の各学部に、しかもほぼ第一志望で進学できます。また、明治大学への推薦を確保しながら、国公立大学や条件付きながら私立大学を併願受験、進学することもできます。受験を心配する環境ではないために、受験科目としての「英語」ではなく、じっくりとコミュニケーションツールとしての“English”を学ぶことができます。また、文系理系へのクラス分けも高校 3 年からと遅く、文系でも、理数系の科目を勉強することになります。広汎な科目の履修が、大学進学後や卒業後の人生に大切だと考えています。

様々な形で行われている明治大学との高大連携講座では、専門性を理解するためにどのような基礎学力が必要か、高校での科目がどのように役立つのかを、大学教員によって徹底的に教育してもらえる環境を作っています。公認会計士や法曹資格などを学部在学中に多くの卒業生が取得しています。

直系付属校というこうした恵まれた教育資源や環境を通して、心身とも健全で優秀なグローバル人材を多く輩出することにより、世界に貢献できる「第一級の人物」を育成していく「名門校」でありたいと思っています。

第１章　理想の大学付属校を目指して

本校は、多くの生徒が大学への受験勉強を必要としないため、中学・高校で身につけるべき基礎力を、時間をかけてしっかりと身につけることができます。これが、明治大学直系の付属校である本校最大のメリットだと考えています。

【１】「第一級の人物」を目指して

本校では、初代校長鵜澤総明が生徒に語り掛けた「第一級の人物たれ」という言葉を大切にしています。すなわち、学力のみならず、社会力や精神力も鍛え、周りから尊敬されるような立ち居振る舞いを身に付けてほしいと願っています。中学・高校時代には、今、何が問われているのかを思考し、自分の考えを他者に表現する力、自分を高めるために行動する力、基本的なマナー・ルールを大切にする力、困難を乗り越える力などを重視して教育しています。これらの力は、大学に進学し、社会に出た後も常に求められていきます。本校では、受験勉強に時間を割く必要がないというメリットを活かし、これらの力が身につくよう、時間をかけてじっくり指導しています。

【２】伝統の継承と「教育改革」

2008年４月、本校は調布キャンパスに移転・男女共学化しました。新校舎は「学習環境の整備」(Study)、「ゆとり空間の演出」(Space)、「スポーツ施設の充実」(Sports)の３つのSをコンセプトに設計され、付属校らしい学びの環境となっています。充実した施設・新しい校舎にとどまることなく、現在もまた、「基礎教育の徹底」「グローバル教育の強化」「高大連携の推進」「クラブ活動の活性化」に加え、さらに「一人ひとりを大切にした」教育を実現するため、さまざまな改革に取り組んでいます。

なお本校の共学化は、男女共同参画時代の到来に伴う教育的ニーズの高まりに応えたもので、女子と男子がお互いの価値観を認め合い、協力し合うことの意義を強く認識して成立しました。もちろん伝統に裏打ちされた明治ならではの人間教育は、移転・共学化後も変わることなくしっかりと継承されています。

【３】100周年記念事業「グローバル推進」

創立 100 周年記念事業の一つとして「鵜澤総明教育振興・奨学金プログラム」を創設しました。この奨学金プログラムは、本校がこれまで歩んできた 100 年の伝統と偉業を継承するとともに、新たな 100 年を見据えた教育振興・奨学金プログラムです。このプログラムによる最大のねらいは、100 周年記念事業募金による寄付金（積立金）を原資とする奨学金の活用による、海外留学、体験学習等を通じてグローバル社会におけるリーダーを育成することです。今後はこのプログラムを利用した生徒が積極的に海外に飛び出し、グローバル視野を持ち合わせた人材へと成長していくことを大いに期待するところです。主なプログラムは下表の通りです。

名　称	内　　容
海外留学支援プログラム	「明治大学付属明治高等学校生徒外国留学に関する規程」による留学（第１種留学という）、または校長が認めた本校を休学して海外の後期中等教育学校への留学（第２種留学という）に対する支援するプログラム。
「世界を知ろう」フィールドワークプログラム	本校が 100 周年を記念して実施するイングリッシュプレゼンテーション、スピーチコンテスト等において、優秀な成績を収めかつチャレンジ心旺盛な生徒を海外に派遣し、現地におけるボランティア活動や現地住民との交流プログラムへの参加によって、異文化の理解や国際的なコミュニケーション能力の涵養を図るためのフィールドワークプログラム。
海外交流体験プログラム	本校の海外協定校・提携校等と共同で実施する生徒間交流プログラム、ワークショッププログラム、研修等に参加する生徒に対する支援プログラム。
文化・スポーツ海外交流支援プログラム	海外の学校、団体等と共同で開催する研究発表、演奏会、交流試合等に参加する本校の班・部に対する支援プログラム。

【４】調布キャンパスの基礎情報

（１）スクールバスの導入

本校は通学時の安全性や利便性を確保するため、スクールバスを導入しました。スクールバスは平常授業時以外も、日曜・祝日、長期休暇中等は、生徒のクラブ活動に合わせて運行します。また、保護者会等の保護者行事にも対応しています。

［発着場所］ 京王線調布駅中央口南側(朝7時の登校時と下校時)から約20分
京王線飛田給駅北口(朝７時15分以降の登校時)から約10分
JR中央線三鷹駅北口から約25分
JR南武線矢野口駅南口から約25分

［最終バス］ 登校時刻に間に合う最終バスは、8時15分(飛田給駅発)、8時01分(三鷹駅発)、8時00分(矢野口駅発)です。下校時の最終バスは、調布駅・三鷹駅・矢野口駅行ともに18時30分(平日・休日)、17時30分(土曜)です。

参考資料：スクールバス ダイヤ（中学・高校共通）

平常運転時【登校時】　　遅：遅刻用

時間	京王線		JR南武線	JR中央線
	調布駅南口　発	飛田給駅北口　発	矢野口駅南口　発	三鷹駅北口　発
6時			58	57
7時	0	15　29　50 58	6　14　23 46　56　59	5　26　31 36　39　46 51　55　58
8時		6　9　11 14 15　50遅	0　40遅	1　45遅
回数	1回	10回	9回	12回

【下校時】　直：矢野口駅直行：G：府中グラウンド行

時間	京王線・JR南武線	JR中央線
	調布駅南口経由 矢野口駅南口　行	三鷹駅北口　行
15時	20　24 直　28 32 直　36　40G 45	20　27　35 47　58
16時	0　20　40	20　40
17時	0　15　40　55	0　20　40　55
18時	10　15　20　23 25直　28　30	10　20　25 28　30
	21回	16回

（２）キャンパス紹介

ア　施設全般

■敷地面積

・39,837㎡

■建物面積(延床面積)

・23,994㎡

・講堂・体育館棟、管理棟・教室棟（３階建）、部室棟で構成。

■建物外観

・外壁は茶系のタイル貼りで、周辺環境に配慮しました。

■空調設備

・全教室に冷暖房完備。

・環境に配慮したエコ・アイス（氷蓄熱式空調システム）を採用。

■防犯・防災

・機械警備システム、監視カメラ、緊急呼出装置、地震速報設備を導入。

■植栽

・校地を緑あふれるものとするため、既存樹木の移植も含め、合計14,000本以上の樹木を植樹。

・一部屋上緑化。

イ　学習環境

■図書館

①　面　積　644.86㎡

②　天井高　約６ｍ

③　床　　フローリング

④　その他

・蔵書は約70,000冊以上、多読用の洋書も約7,000冊。

・図書館前の廊下は、図書館と一体感を持たせるためフローリング貼とし、各教科との合同展開授業に対応するため隣接して教室を配置し、行き来することができます。

・調べ学習等に対応して、50台のノートパソコンを配備。なお、新聞社等の有料検索システムと契約しており、利用することができます。また、明治大学図書館（駿河台、和泉、生田、中野）も利用できます。

■コンピュータ教室　２室

①　面　積　約102㎡／１室

②　天井高　約３ｍ弱

③　床　　タイルカーペット

④　その他

・両教室にはWindows PC ３６台、iMac PC ６台を配置しています。

■CALL教室　２室

①　面　積　約102㎡／１室

②　天井高　約３ｍ弱

③　床　　タイルカーペット

④　その他

・CALL教室１にはWindows、CALL教室２にはMacBookのノートパソコンをそれぞれ４２台配置しています。

■HR教室

① 面　積　72㎡
② 床　　フローリング(茶系)
③ 天　井　岩綿吸音板(白系)
④ 壁　　腰高まで：シナ合板
　　腰高より上：硬質石膏ボード(白)
⑤ 幅　木　木製幅木
⑥ 付帯設備
　内線電話、プロジェクター、情報コンセント、スポーツバック用収納ロッカー(木製)
⑦ その他
・廊下に個人ロッカー(ダイヤル施錠式)を設置
・机：幅65cm奥行き45cm高さ73cm
・椅子：新JIS規格に対応したものを採用

■情報設備
・全教室にプロジェクターを設置。
・映像配信システムの導入。
・講堂及び放送室の映像を一斉に全教室に配信するシステムの導入。
・無線ＬＡＮ環境整備（校内全体）。

ウ　ゆとり空間

■エントランスホール
・縦12m、横50m、高さ６ｍ。隣接して鵜澤総明ホール(講堂)前に縦８ｍ、横30m、高さ６ｍのホワイエを配置。

■食堂

① 座席数　300席
② 床　フローリング、一部長尺塩ビシート
③ 天井高　約６ｍ
④ その他
・カフェテリア(50席)が隣接。
・中１から高３まで利用可能。昼と放課後に営業。

■鵜澤総明(うざわふさあき)ホール(講堂)

① 座席数　1450席
② 床　　タイルカーペット
③ 天井高　最大12.5m
④ その他
・主要設備　舞台機構、音響・照明・映像設備、グランドピアノ
・付帯設備　楽屋２室、倉庫

■多目的教室
① 座席数　336席
② 床　　タイルカーペット
③ 天井高　３ｍ弱
④ その他
・学年集会、学校説明会など多目的な行事に対応可能な教室。

■作法室(和室)

① 広　さ　12畳×2間（ふすまを開け放ち、大広間としても利用可）

② 床　　畳、フローリング

③ 天井高　３m弱

④ その他

・茶室を設置

■廊下

・ゆとりをもたせ、南棟は幅６m、北棟は幅４mで、全廊下にベンチを設置。

・南棟２階、３階コーナーには丸テーブルを設置。

・手洗い、冷水機を設置。

■トイレ

・生徒数及び男女共学に対応した小便器、和便器及び洋便器を設置。

・女子トイレ洋便器ブース全てに擬音装置付き。

・女子トイレに生理用品自販機を設置。

・洋式トイレ洗浄便座設置。

エ　災害時の対応

■避難

・全校での避難訓練を年２回実施。

・防災および避難方法のマニュアルを教室掲示して徹底。

■食料備蓄

・全生徒・教職員数の80%を帰宅困難者、20%を帰宅可能者と想定。

・帰宅困難者には３日分、帰宅可能者には１日分の非常食を備蓄。

・非常食はアルファ米の他に、飲料水、クラッカーなどを用意。

■自家発電装置

・施設、設備法定点検時のバックアップ電源。汎用発電機３台。

オ　その他

■インフォメーションコーナー

・中学校から大学まで、全明治の情報を提供。

■面談室

・生徒、保護者面談用に５室設置。

■研究室、実験教室、実習教室

・各教科研究室、図書館教職員用閲覧室、理科実験教室（4教室）、美術室（2教室）、音楽室、技術室、調理室、被服室、書道室などを設置。

第２章　本校の教育

【１】基礎教育の徹底

（１）きめ細かな指導

本校では、調布移転に伴って１クラスの人数を減らし、これまで以上にきめ細かな教育を行っています。現在は中学が約35名、高校が約40名となっています。これにより、学習指導面・生活指導面の両面で、目の行き届いた教育が可能になりました。

在籍生徒数・クラス人数　　（2023年4月集計）

	中学校				高等学校			
	男子	女子	計	クラス数	男子	女子	計	クラス数
１年	86	89	175	5	141	137	278	7
２年	97	87	184	5	142	139	281	7
３年	85	96	181	5	140	112	252	7
計	268	272	540	15	423	388	811	21

中学高校総計1351人

授業でしっかり指導していても、現実には学習が遅れ気味の生徒が出てきます。学力の差がつきやすい英語と数学に対して、成績不振者を対象に毎週１回ずつの「７限補習講座」を放課後に設けています。それに加え、夏休みを利用し、１週間の「夏期補習」を行っています。

（２）教科の教育

現在、中学では週７時間の英語の授業のうちの４時間は、少人数授業（中１）、習熟度別授業（中２・３）の総合英語、２時間は英文法、１時間は外国人教員との英会話を行っています。特に英語、数学は宿題・小テスト等が多く、必要な負荷をかけることによって、基礎力の育成・定着を図ります。また、検定外教科書「New Treasure」（英語）「体系数学」（数学）を主教材として使用し、先取り授業も行っています。

高校１・２年生では、上級学年や大学で発展的な学習をするための基礎学力を広く深く養成するため、ほとんど全ての科目を必修とし、全員が同じ科目を学習しています。３年生では大学の志望にあわせて文系・理系に分かれ、その中で、さらに選択科目を設けています。なお、英語力の強化のため、高１の英語の授業を１時間増やし週６時間（コミュニケーション英語Ⅰ：４時間、論理・表現Ⅰ：２時間）としています。

【２】実践的教育の強化

（１）選択科目の充実

大学付属校の教育の特色として、大学入学後や将来のグローバル社会に適応するための幅広い教養獲得につながるような選択科目を高校３年次に設置しています。文系では「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「簿記」などが選択でき、大学での学びにつなげます。

（２）探究型学習の強化

本校では、問題解決能力の育成を目的に「探究型学習」を、教科横断的に授業等に組み入れることを目標としています。そこでは、図書、新聞、雑誌、インターネット情報等

の活用法を学び、さらに「書く・まとめる」ことで言語能力の強化を目指しています。

■探究選択（2023年度高２より）

高１・２年で身につけた基礎学力をもとに、探究的・発展的な学びをより深めることを目的に、高２後期・高３前期にかけて「探究選択」を設置します。生徒は各教科で開講する13講座の中から、自らの興味に合わせて対象分野を選択します。

（３）資格取得

英語検定、TOEIC、漢字検定、簿記検定などの資格取得は、教科範囲を超えた実践力を高めるだけでなく、中高一貫校に見られる「中だるみ」現象を回避する効果もあります。

英語検定・TOEICは年３回校内で団体受験を実施し、その対策指導も授業中や放課後に行います。英検は全生徒が中３までに準２級を、高３までに２級を取得することを目標にしています。2022年度は中学３年生の99.4%が準２級一次試験に合格しました（うち、97.7%は準２級二次試験まで合格）。また高校では、2022年度は高校３年生の100%が英検２級に合格し、さらに学年生徒のTOEICスコアの平均は583点となりました。

漢字検定は、本校独自の「校内漢字検定」と「日本漢字能力検定」を併用して行っています。高校卒業までに全員が「日本漢字能力検定」２級を取得することを目指しており、定期考査にも各級の漢字学習を組み入れています。

英語検定取得状況（2022年度末結果）

（参考：目標は最新の「年度末目標」）

学年	目標	達成度	4級未満	4級	3級	準2級1次	準2級	2級	準1級	1級
中1	4級100%	99.5%	1	45						
	3級50%	75.1%			124		12	3		
中2	3級100%	98.9%		2	10					
	準2級50%	93.4%				9	142	18		
中3	準2級1次100%	99.4%			1	3				
	準2級100%	97.7%					96			
	2級20%	42.2%						73		
高Ⅰ	2級50%	72.8%				4	52	199	4	
高Ⅱ	2級80%	91.7%				2	16	216	14	1
高Ⅲ	2級100%	100%						257	21	

（４）情報教育

中学の技術・家庭科では、コンピュータとアプリケーションソフトの基本的な使い方等の基礎知識を学びます。高１では「社会と情報」で各種ソフトやインターネットを利用し、コンピュータの活用法やメディアリテラシーを学びます。また、産学協同プログラムを導入し、企業から与えられる各種の課題に対して共同して取り組んでいます。高３では選択科目「情報デザイン」でレポート作成やプレゼンテーションのツールとして、積極的に活用できるよう指導しています。

（５）図書館利用教育

図書館を読書の場としてだけでなく「広域学習」の拠点となる「学習センター」として機能させ、課題の発見と解決による自発的学力を育む場としています。また、専任の司書教諭による読書指導や調べ学習の指導を授業の中に組み込んでいます。

■ミニ情報：図書館

図書館カウンターには、貸出・返却の他、読書相談・学習相談コーナーが設けられ、生徒はいつでも気軽に相談することができます。図書館は中庭に面した造りで、緑の芝生を臨むブラウジングスペースにはソファが置かれ、ゆったりくつろげる空間になっています。蔵書数は70,000冊、検索端末は４台設置され、図書だけでなく各種情報の検索も可能です。中庭を眺めながら勉強できる学習スペースなど、自習可能な座席は74席あります。さらにノートPCを50台配備、生徒は付与された個別IDを利用して、Web検索や外部データベースに自由にアクセスすることができます。

明治大学で多くの生徒が学ぶ法律、経済等の図書のうち、高校生にもわかるような専門書や新書などを数多くそろえ、英語科とのコラボとなる多読本は7,000冊まで増やしました。その他、豊かな読書生活のサポートのために、日本や海外の読み物もあります。手軽に読める文庫本や話題になった図書、鉄道やスポーツなどの趣味や部活動に役立つ本など、生徒がその成長や関心にあわせてよりよい本との出会いができるように、幅広い選書を心がけています。

【３】高大連携の推進

高大連携(高校と大学の教育連携)は本校の教育の特色の１つです。大学との連携を深めることで、生徒たちは進路に対する関心を高め、さらには大学で得る知識や資格の先取りを行うことができます。2005年度よりスタートした「プレカレッジプログラム」では、大学の授業を高校在学中に履修することができ、修得すると大学入学後単位が認定されます。

（１）高大連携講座

明治大学の直系付属校という恵まれた環境を活かし、大学の学部選択に対する準備講座を高２前期（2023年度より）・高３後期(2024年度より)の授業に組み込んでいます。この高大連携講座は大学教員が、直接本校で週２時間の授業を行います。キャリア教育の一環として実施し、生徒は適切な進路選択と幅広い知識の獲得を目指します。

（２）プレカレッジプログラム

希望する生徒は明治大学の授業を受講し、大学での学びを先取りすることができます。申請により、大学入学後に大学の単位として認定されます。進路選択のきっかけになることはもとより、いち早く大学での専門分野の学習をスタートできます。

（３）サマーセミナー、スプリングセミナー、ウインターセミナー

高大連携を一層進めるため、夏期休暇中に、「法曹入門講座」、「簿記講座（３級・初級）」、「留学準備講座」、明治大学理工学部プログラミング講座等、明治大学総合数理学部データサイエンス体験等を実施しています。また、春期休暇中には「簿記講座（３級・初級）」、高３の３学期には「TOEFL講座」を実施しています。

（４）大学施設の利用

大学図書館(駿河台・和泉・生田・中野)、グラウンド、プール(和泉体育館)など明治大学の施設が利用できます。直系付属校ならではのメリットです。

第３章　学習指導 ―― 基礎学力の保障と思考力・表現力の育成

中学校

2012年度の学習指導要領による教育課程では、ゆとり教育の見直しと多くの教科での学習内容の増加が話題となりました。しかし当時本校ではすでに文部科学省が定めたミニマムスタンダードを超える発展的な内容を学習し、また多くの時間数を確保して教育を行っていました。それは本校が考える学力の育成方針に基づくものです。明治中学では英語と数学を除き、むやみな先取り学習は行わない代わりに、じっくり深く基礎学力の習熟を図っています。明治高校ではその基礎学力をもとに、思考力や表現力の養成へとステップアップします。

【１】週６日制授業

本校では学力保障の観点から、土曜日を午前４時限の平常授業とする週６日制としています。週５日制で教育内容を維持しようとすることは難しく、いわゆる「つめこみ式」の教育になりかねません。週34時間をかけて、特に国語、社会、数学、理科、英語の５教科の授業が充実しているのも本校のカリキュラムの特色です。

【２】試験制度と評価

本校では３学期制を採用し、中学では年５回の定期考査に加えて、夏休み明けに５科の実力考査を行っています。成績評価は考査の成績以外に、宿題、提出物、小テスト、授業態度等を数値化した平常点を加え、100点法で算出します。また、総合成績を学年順位で示し、生徒の目標設定に役立てています。また、本校では人物の総合評価となる「行動評価」を学期ごとに出しています。中学から高校への内部推薦基準、高校から大学への推薦基準ともに、平常の学習成績評価と英語検定（高校はTOEICスコアも）、行動評価の観点からなっています。

【３】進級と進学

本校は大多数の生徒が進級し、明治高校さらに明治大学へと推薦入学していますが、決して「エスカレーター式」の学校ではありません。中１から高３までの各学年に進級基準があり、中学から高校、高校から明治大学へ進学を希望する場合は推薦基準があります。基準が充足されない場合は、原級留置や他高校受験、他大学受験となります。追試や仮進級制度などはありません。

【４】部活動との両立

本校ではクラブ活動も非常に活発ですが、同時に中高６年間は「頭脳の基礎体力」を築く時期でもあります。すべての生徒が学習習慣をしっかり確立し、基礎学力の充実を図る必要があり、クラブ活動と学習の両立は、どの生徒にとっても重要な課題となります。そこで学習に真摯に向き合う環境を整える目的で、一部生徒を対象に、考査前のクラブ活動停止制度を設けています。通常は考査１週間前までクラブ活動ができるところを、成績下位生徒を対象に考査２週間前からクラブ活動を停止とし、当該期間、校内に設置される自習室などで試験準備に取り組むよう指導しています。対象となるのは考査成績において下位10％以下、または40点未満科目が複数となった生徒で、毎考査ごとに指名されます。

【５】各教科の特色

国語では幅広い読書を奨励するとともに論理的に表現する力を養います。社会では自分で調べ、それをもとに考え、批判する力を身に付けます。数学でも思考力を高めることに主眼を置いています。理科では実験・観察を通して思考力を高めます。なお、数学は「体系数学」、英語は「New Treasure」といった検定外教科書を主教材として使用しています。

参考資料　各教科の教科書および主な教材一覧（2024年度以降は変更する場合があります）

教科	教科書	副教材
国語	中学国語「伝え合う言葉」(教育出版) 中学書写（光村図書）	国語便覧東京都版(浜島書店) E漢字（とうほう） 的確につかむ文法の学習(浜島書店)
社会	中学生の地理(帝国書院) 中学校社会科地図　(帝国書院) ともに学ぶ人間の歴史（学び舎） 中学生の公民(帝国書院)	歴史の資料（正進社） 歴史の用語図鑑（正進社） 公民の資料（正進社） 公民の用語図鑑（正進社）
数学	新しい数学１、２、３（東京書籍）	中学数BEKI（教育開発出版） 計算検定問題集(本校数学科)
理科	未来へひろがるサイエンス１、２、３(啓林館)	中高一貫進展理科（文理）
英語	New Treasure(Z会) New Treasure文法問題集(Z会)	New Treasure Workbook（Z会） 基礎英語(NHKラジオ)など

【６】英語教育　－Communicative Englishを目指して－

グローバル社会で求められる実践力(コミュニケーション力)を養うため、本校では「読む」「書く」「話す」「聞く」の４技能をバランスよく学んでいきます。週７時間という授業時間数を生かし、実用性の高い英語力を身につけることに加え、英検などの資格取得も目指しています。

■英語教育のポイント

（１）運用力を高める

・少人数授業(２クラスを３分割、中学のみ)
・外国人教員による授業(週１時間)
・夏期はカナダ、春期はオーストラリアでの海外語学研修(希望者)
・British Hills(福島県)での中学生イングリッシュキャンプ(希望者・春期３日間)

（２）目標を持たせる

・英語検定、習熟度別少人数授業(中２・３)

（３）多読を推奨する

・中１から高３まで、定められた年間目標語数到達に向けて英語冊子を読み込む。
・英文インプット（理解）を増やし、リビュー提出でインテイク（定着）を充実させる。

（４）発信力を強化する

・スピーチコンテスト［中３・高１］
・イングリッシュプレゼンテーション［高２・高３］
(各コンテストの入賞者には奨学金助成による海外研修)

高等学校

2013年度(数学･理科は2012年度先行実施)の学習指導要領による教育課程では、ゆとり教育の見直しと多くの教科での学習内容の増加が話題となりました。しかし、当時本校ではすでに、文部科学省が定めたミニマムスタンダードを超える発展的な内容を学習し、また多くの時間数を確保して教育を行っていました。それは本校が考える学力の育成方針に基づくものです。明治高校では、大学入試の枠にとらわれずに培うことができる幅広い基礎学力をもとに、思考力や表現力の養成に力を入れています。

【１】週６日制授業

本校では学力保障の観点から、土曜日を午前４時限の平常授業とする週６日制としています。週５日制で教育内容を維持しようとすることは難しく、いわゆる「つめこみ式」の教育になりかねません。週34時間をかけて、特に国語、地歴・公民、数学、理科、英語の５教科の授業が充実しているのも本校のカリキュラムの特色です。

【２】コース選択

通常進学校では受験準備のため早いところで高校１年から、遅くても２年から文系・理系や私大・国公立大といったコース選択を導入しています。しかし現実にはすべての生徒がその時点で進路を決定できているわけではありません。また１・２年次で配当された基礎科目を履修していないことで、進路選択を狭めるケースも見受けられます。

本校は受験勉強にとらわれずに学習できる大学付属の利点を生かし、高校２年までを「自分の適性を見極める時期」と考え、文系・理系の区別や入試科目偏重のカリキュラムを行わずに、広い基礎学力優先の教育を行っています。高校３年では、自分の適性・志望に基づいて文系・理系コースを選択し、それぞれのコース内選択科目の中から学びたい科目を選択します。

【３】試験制度と評価

本校では３学期制を採用し、高校では年５回の定期考査を行っています。成績評価は考査の成績以外に、宿題・提出物・小テスト・授業態度等を数値化した平常点を加え、100点法で算出します。また、総合成績を順位で示し生徒の目標設定に役立てていることに加えて、人物の総合評価となる「行動評価」を学期ごとに出しています。高校から大学への内部推薦基準は、平常の学習成績評価と、英語検定・TOEIC、行動評価の観点からなっています。

【４】進級と進学

本校は大多数の生徒が進級し、明治大学へ推薦入学していますが、決して「エスカレーター式」の学校ではありません。高１から高３までの各学年に進級基準があり、高校から明治大学へ進学を希望する場合には推薦基準があります。基準を満足しない場合には、原級留置や他大学受験となります。追試や仮進級制度などはありません。

【５】各教科の特色

国語では幅広い読書を奨励するとともに、論理的に表現する力を養います。地歴・公民では自分で調べ、それをもとに考え批判する力を身に付けます。数学でも思考力を高めることに主眼を置いています。理科では実験・観察を通して思考力を高めます。英語では今後のグローバル社会で求められる実践力を養うため、「読む」「書く」「話す」「聞く」の４技能を育成し、大学入学共通テストにも十分通用するよう指導しています。

【６】英語教育　－Communicative Englishを目指して－

グローバル社会で求められる実践力(コミュニケーション力)を養うため、本校では「読む」「書く」「話す」「聞く」の４技能をバランスよく学んでいきます。実用性の高い英語力を身につけるだけでなく、英語検定やTOEICなどの資格取得にも積極的に取り組んでいます。

■英語教育のポイント

（1）運用力を高める

・検定演習授業を必修〔高２、高３〕

・外国人教員による授業(週１時間)

・夏期はカナダ、オーストラリア、春期はオーストラリアでの海外研修(希望者)

・明治大学清里セミナーハウスでの夏期国内研修(希望者)

・高３の明大進学予定者を対象とした３ヶ月海外研修（ヨーク大学）（希望者）

（2）目標を持たせる

・英語検定、TOEIC、結果を大学推薦成績に反映

（3）多読を推奨する

・高１から高３まで、定められた年間目標語数到達に向けて英語冊子を読み込む。

・英文インプット（理解）を増やし、リビュー提出でインテイク（定着）を充実させる。

（4）発信力を強化する

・スピーチコンテスト［中３・高１］

・イングリッシュプレゼンテーション［高２・高３］

(各コンテストの入賞者には奨学金助成による海外研修)

【７】部活動との両立

本校でも、学習とクラブ活動の両立は重要な課題の１つです。そこで学習に真摯に向き合う環境を整える目的で、一部生徒を対象に、考査前のクラブ活動停止制度を設けています。通常は考査１週間前までクラブ活動ができますが、成績下位者は２週間前から活動停止となり、当該期間は校内に設置される自習室などで試験準備に取り組みます。対象となるのは、毎考査成績において下位10%以下、または40点未満科目が複数となった生徒です。

【８】内部進学生徒と高入生徒

高校１年入学当初から明治中学出身者と同じクラスで学習します。明治中学では英語と数学で高校内容を一部先取り学習していますが、その範囲は入学前の春休みの宿題になります。数学の先取り分野については、入学後の補習授業でもケアします。また、入試教科でない理科や社会の学習を中学校で軽視すると、入学後苦労するケースがありますので、こうした教科でも基礎学力は確実に身に付けておいてください。

第４章　学校生活 ―― ルールを守り、「独立自治」を育む

本校では知性だけに片寄ることなく、感性や体力を養うことも重視し、人間性あふれる人物を育てることを目指しています。特に、多彩な学校行事や活発なクラブ活動を通じ、建学の精神である「独立自治」「質実剛健」を育てていきます。

【１】学校行事

学校行事は学校生活に彩りを加え、人間形成と人格陶冶のうえで重要な教育活動となっています。特に文化祭、体育祭、修学旅行、林間学校といった学校行事は生徒たち自身の手によって企画・運営されます。そうした体験を通じ、生徒たちは協力することの大切さや企画・運営することの難しさなどを学びます。

※2019年度末～2022年度にかけて、新型コロナウィルス感染予防の一環により、多くの行事に変更・中止の措置がなされました。

主な学校行事（※以下　通常時）

（1）紫紺祭(文化祭)　中高共通

本校で最も大きな行事で、９月下旬の土・日曜に実施されます。高２が中心になって委員会を組織し、企画・運営を行います。展示、催し物、演奏、露店など、見所満載です。吹奏楽班、応援指導班のステージでは、学校全体が紫紺に染まります。

（2）球技大会　高等学校

６月上旬に行われる球技大会は高校生だけの行事です。高３の委員を中心に企画・運営を行います。高校全クラス対抗で優勝を争いますので、各クラスではオリジナルのＴシャツも揃え、応援にも一段と熱が入ります。

（3）体育祭　中学校

10月下旬に行われる体育祭は中学生だけの行事です。中３を中心に企画・運営を行います。中１から中３の縦割りクラス対抗で行います。

（4）修学旅行　中学校

中３の５月下旬に奈良･京都方面で実施。歴史ある社寺を訪ね、優れた文化財に触れます。班別での自主研修や座禅も実施します。中２で実施される静岡方面での移動教室は、社会科学習の要素に加え、修学旅行へ向けての準備という側面もあります。各旅行行事では、生徒による旅行委員会が組織され、教員と一緒になって行程を企画、事前事後の学習を進めます。

（5）修学旅行　高等学校

高２の11月に沖縄方面で実施。高１から旅行委員会を組織し、生徒が中心となって企画・運営を行う修学旅行は、苦労も多い分一生の思い出となります。

（6）林間学校　中学校

５月下旬に中１で実施されます。長野県菅平の大自然のもと、アウトドアでの共同作業を通じて、クラス、学年の親睦を深めます。

（7）林間学校　高等学校

５月下旬に高１で実施されます。群馬県みなかみの大自然のもと、アウトドアでの共同作業を通じて新入生がクラスに溶け込み、団結をはかる絶好の機会となっています。

（8）六大学野球応援　中高共通

神宮球場で大学生と一緒に校歌を歌い、応援します。「明治」スピリットが芽生えます。

（9）海外語学研修（中３～高３）

カナダのトロント大学などで実施されるコース（夏休み）や、オーストラリアでホームステイをしながら現地校へ通うコース（2023年春より）があります。語学研修や小旅行を通し、英語の運用力を高めます。また、高３の明治大学進学予定者を対象としたヨーク大学（カナダ）での３ヶ月海外研修も2018年度より実施されています（いずれも希望者のみ：選抜あり）。

【２】生活指導と学習指導

本校は、「なんでも自由」な校風ではありません。とは言っても、生徒に求めているのは「あいさつ」「身だしなみ」「時間を守る」など、社会の一員として当然に必要とされているマナーです。学習指導は生活指導なくして成り立ちません。基本的な生活習慣を身に付け、自分の目標を定めることで、学習効果も上がると考えています。

また、本校では染髪、ピアス、アルバイトなどを禁止しています。スマートフォン・携帯電話は許可制となっており、登校後は電源を切り個人ロッカーに保管することになっています。

【３】クラス編成　高等学校のみ

入学当初から明治中学出身者と同じクラスで学校生活を送ります。明治中学出身の生徒とうまく溶け込めるか不安に思われる方も多いと思いますが、明治中学出身者は気さくでおだやかな生徒が多く、仲間に入れるかどうかという心配はいりません。また、１学期の球技大会と林間学校は、お互いに打ち解け合い、クラスが団結する絶好の機会となっています。

【４】クラブ活動

本校には38の班・部があり、ほとんどの生徒（中学で約98%、高校で約95%）がいずれかに所属しています。ほぼ毎日活動しているクラブも多く、活動はとても活発です。本校では、学校に対する奉仕的な活動も行う団体を「班」と呼んでいます。

クラブの主な成果・実績（過去実績一部）

吹奏楽班	東京都高等学校吹奏楽コンクール金賞（Ａ組・Ｂ組） ウイーン楽友協会黄金ホールにて単独公演
マンドリン部	全国高校ギター･マンドリン音楽コンクール振興会特別賞 全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール優秀賞、在大阪イタリア総領事賞（令和4年度） 全日本マンドリン合奏コンクール銀賞
剣道部	東京都高等学校新人剣道大会女子個人ベスト１６
硬式野球部	秋季東京都大会ベスト１６

中学野球部	夏季東京都大会出場　　夏季選手権大会第９ブロック優勝
スキー部	全国中学校スキー大会出場　　ジュニアオリンピック出場
柔道部	東京都高等学校柔道大会男子ベスト１６
バレーボール部	関東大会出場（高校男子）　都大会一部大会出場（高校女子）
バスケットボール部	都大会出場（中学男子）　IH予選4回戦進出（高校女子）
バドミントン部	東京都高等学校バドミントン大会男子ベスト３２
サッカー部	関東高校サッカー大会東京都予選ベスト１６ 都大会第３位（中学）
硬式テニス部	全国私学大会出場（高校男子）　都私学大会ベスト１６（女子）
柔道部	関東大会支部第３位（高校男子）
美術部	全日本学生美術展推奨入選
地理研究部	「私たちの身のまわりの環境地図作品展」日本地理学会長賞
映画部	「eiga worldcup2020」入選・優秀監督賞
ダンス部	Music Daysファイナル出場（高校） 中学校ダンス部選手権全国大会出場
書道部	書教展　席書部　文部科学大臣賞

スポーツ施設紹介

■グラウンド　＊2023年度全面改修

①　広　さ　100m走路７レーン、250mトラック、走り幅跳び(砂場＋50m助走路)
軟式野球場２面、サッカーコート１面

②　材　質　人工芝(近隣への砂塵対策)

■テニスコート　＊2019年度全面改修

①　広　さ　５面

②　材　質　砂入り人工芝

■第１体育館(メインアリーナ)

①　広　さ　６人制バレーコート４面、バスケットボールコート２面

②　床　　フローリング

③　天井高　12.5m(バレーボール公式ルールに基づく天井高を確保)

④　その他　２階部分にランニングトラック(幅1.5m)、セパレーターネット

■第２体育館(サブアリーナ)

①　広　さ　６人制バレーコート２面、バスケットボールコート１面

②　床　　フローリング

③　天井高　7.5m

④　その他　セパレーターネット

■柔道場

①　広　さ　２面

②　床　　柔道畳、フローリング

③　天井高　約４m

■トレーニングルーム

①　広　さ　約60㎡

②　床　　長尺塩ビシート

③　天井高　約３m

④　その他

・約10種類のトレーニングマシン

■剣道場

①　広　さ　２面

②　床　　フローリング

③　天井高　約４m

■その他

①製氷機を設置。

②各所に冷水機を設置。

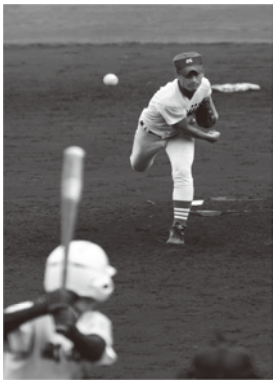
③更衣室４室

④更衣シャワー室２室

（１室あたりシャワーブース４か所）

校外施設

■硬式野球部グラウンド



① 名　称　明治大学府中グラウンド第二球場

② 所在地　府中市若松町5-6-1(旧三井物産グラウンド)

③ 交　通　京王線東府中駅より徒歩20分
（本校校舎から直線距離で約３㎞）

④ 規　格　センター105ｍ、両翼90ｍ

⑤ 材　質　天然芝(外野)、混合土(内野)

⑥ その他　2007年度より東京都秋季・春季大会の会場校。
隣接する第一球場(大学硬式野球部専用球場)は、2009年度より全国高等学校野球大会の東東京・西東京大会会場校。
校舎から府中グラウンドまでは、スクールバスで移動(往路のみ)。
大学硬式野球部との連携により、第一球場での活動も可能。
中学野球部も利用可能。

参考資料　班・部活動現勢表

種別	班・部名	中学		高校		総計	活動日数（週）
		男	女	男	女		
班	生徒会本部	24	45	23	44	136	週 1～6
	応援指導班	1	21	1	30	53	週 3
	新聞班	0	6	1	6	13	週 1
	吹奏楽班	2	32	6	46	86	週 5～6
	放送班	1	7	0	2	10	週 1
	図書班	2	4	3	15	24	週 2
運動部	剣道部	11	8	14	14	47	週 4
	硬式野球部			29	4	33	週 6
	中学野球部	29	0			29	週 5
	高校山岳部			4	1	5	週 2
	水泳部	5	4	15	16	40	週 4
	スキー部	8	11	12	6	37	週 4
	卓球部	14	2	8	2	26	週 5
	柔道部	0	0	5	2	7	週 5
	ソフトテニス部			16	24	40	週 4
	バレーボール部	24	32	20	20	96	週 4～5
	バスケットボール部	29	18	28	12	87	週 5～6
	バドミントン部	17	23	18	26	84	週 4
	陸上競技部	3	1	17	12	33	週 4
	サッカー部	45	0	78	0	123	週 4～5
	男子硬式テニス部	40		59		99	週 4～５
	女子硬式テニス部		29		30	59	週 3～４
文化部	ＥＳＳ部	0	1	0	14	15	週 2
	マンドリン部	0	12	3	15	30	週 5～6
	物理部	7	0	4	5	16	週 3
	化学部	2	2	5	1	10	週 3
	生物部	4	5	0	11	20	週 2
	書道部	0	7	0	16	23	週 2～3
	地理研究部	16	10	6	0	32	週 3
	歴史研究部	5	2	7	2	16	週 3
	美術部	1	10	1	8	20	週 3
	ＪＲＣ部	0	0	2	0	2	週 1
	地学部	4	10	4	7	25	週 2
	将棋部	4	1	1	1	7	週 1
	映画部	3	9	9	11	32	週 3
	コンピュータ部	4	1	13	0	18	週 3
	鉄道研究部	8	1	8	0	17	週 3
	ダンス部	0	23	0	33	56	週 3

活動日数（原則）

中学　週 5 日まで

高校　週 6 日まで

総班員数

班	男子	女子	合計
中学	30	115	145
高校	34	143	177

運動部　総部員数

	男子	女子	合計
中学	225	128	353
高校	323	169	492

文化部　総部員数

	男子	女子	合計
中学	58	94	152
高校	63	124	187

第５章　進路指導 ―― 志望学部進学を目指して

中学校から高等学校への推薦基準は、①中学３年の２学期末までの成績において、９教科の成績に40点未満の教科がなく、５教科の成績が平均55点以上（英語検定準２級１次に合格していない場合は平均65点以上）であること、②英検準２級１次以上の合格していること、③行動評価「良」以上となっています。2022年度は、中３生173名中171名が明治高等学校に推薦され、内部進学しました。

高等学校から大学へは、人物および適性と３年間の学習成績により明治大学各学部へ推薦されます。2022年度高校３年生の推薦基準は、①高校３年間の総合推薦成績が平均60点以上、②英語検定２級合格、③TOEIC450点以上の取得、④行動評価「良」以上となっています。2022年度の高３生は、278名中244名(うち農学部自己推薦特別入試合格３名)が大学に推薦され進学しました。本校が明治大学唯一の直系付属校であることから、明治大学への推薦枠に恵まれ、これを最大限活かした結果です。また、密接な高大連携や、一人ひとりを大切にしたきめ細かな進路指導は高１から始まり、本校教員、大学教員、卒業生などが一体となり、重層的に指導にあたっています。

さらに、明治大学以外の大学を志望する場合、国公立大学および大学校の場合は、明治大学の推薦資格を保持したまま併願受験ができ、2022年度は、現役で他大学に進学した33名中５名が国公立大学に進学しています。進学先は、東京工業大学、北海道大学、山形大学、千葉大学です。私立大学の場合は、併願する明治大学の学部・学科ごとに条件が異なりますが、一部併願可能です。2016年度から導入された私大併願制度が定着してきた結果、私立の他大学への進学も増加傾向にあります。　　⇒『学校案内』10ページ

参考資料　　高校３年　進路指導年間計画

第１学期

４月　卒業・大学推薦基準及び進路説明会

６月　明治大学理工学部研究室訪問・農学部公開授業
第１回進路志望調査
明治大学学部別説明会

７月　国公立併願受験および他大学受験者説明会

夏休み　高大連携サマーセミナー
「法曹入門講座」「簿記検定講座(初級・３級)」
「留学準備講座」
明治大学理工学部プログラミング講座等
明治大学総合数理学部データサイエンス体験等

第２学期

11月　最終志望調査・明治大学推薦願

12月　大学推薦判定会議

第３学期

１月　３学期特別授業　　学部別入学前教育
明治大学出願手続き　　明治大学推薦面接試験
大学入試共通テスト
高大連携ウインターセミナー「TOEFL講座」

２月　３学期特別授業　　学部別入学前教育
大学推薦合格発表

３月　卒業式

第６章　入学試験 —— 学校のもうひとつの顔

中学校

学校の入学試験には「こんな生徒たちに出会いたい」というメッセージが込められています。私たちも「基礎学力を持った」「思考力・表現力が備わった」そして「本校で学びたいと思っている」生徒たちに出会いたいと願っており、それが実現できるような入試問題づくりを心がけています。また、本校の合格基準(最低)点は、中学の場合約60％前後と比較的高くなっています。これは、難問・奇問を廃し、前に述べた生徒が実力通りに合格できるよう配慮したものです。

【１】2023年度中学入学試験の概況

（１）　入試結果（2022年度と2023年度の比較）

	第１回				第２回			
	2023年度		2022年度		**2023年度**		2022年度	
	男子	**女子**	男子	女子	**男子**	**女子**	男子	女子
志　願　者　数	**283**	**290**	289	298	**269**	**282**	319	306
受　験　者　数	**252**	**256**	247	267	**142**	**169**	168	188
合　格　者　数	**119**	**84**	121	79	**40**	**46**	43	47
実　質　倍　率	**2.12**	**3.05**	2.04	3.38	**3.55**	**3.67**	3.91	4.00
受験者平均点	**212.76**	**211.74**	203.65	193.79	**195.31**	**204.05**	192.56	198.11
合格者平均点	**242.91**	**249.98**	228.39	213.54	**230.10**	**238.96**	226.49	232.60
合格最低点	**221**	**233**	206	214	**212**	**222**	212	218

第１回の志願者は573名(男子283名、女子290名)で、昨年と比べ総数で2.4％減少しました。男女別では男子が2.1％減、女子が2.7％減となりました。第２回は551名(男子269名、女子282名)で、昨年と比べ11.8％減少しました。男女別では男子が15.7％減、女子が7.8％減となりました。

ここ数年の潮流であった大学付属校・系属校への人気はかなり落ち着いてきました。それでも、未だ不安が大きく残っている大学入試改革や都内私立大学の定員厳格化の動きは敬遠される傾向があります。それと並行して大学受験の準備にとらわれることなく、本質的かつ多様な学びの体験に十分に時間を充てられる大学付属校の「強み」は依然として根強く評価されているものと考えられます。

（２）　男女比１:１と合格最低点

合格者は、第１回では定員約90名に対し203名(男子119名、女子84名)、第２回では定員約60名に対し86名(男子40名、女子46名)としました。なお、今回は女子７名の追加合格を発表しました。※2022年度追加合格者数は女子３名。

共学当初は、入学者の女子割合が30±5%になるよう定めていましたが、年を追うごとに高レベルの女子が志願するようになり、合格最低点の男女差が広がりました。これを是正する目的で2013年度より入学者の女子割合を40±5%になるように変更し、2020年度には男女比を1:1になるよう変更しました。2023年度の合格最低点の男女差は、第１回は女子が12点、第２回は女子が10点高くなりました。（2022年度第１回は女子が８点、２回は女子が６点、それぞれ高くなりました。）実際の入学者数は男子86名、女子89名となり、女子割合は50.9％となりました。(2022年度入学者数は男子97名、女子88名となり、女子の割合は47.6％でした。)

（３） 本校志願者居住エリアは安定

志願者数地域別比較

地　域	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
東京都区部	37%	43%	41%	39%	39%	38%
東京都市部	41%	33%	34%	37%	34%	37%
神奈川県	17%	18%	20%	19%	20%	19%
千 葉 県	1%	1%	1%	1%	1%	1%
埼 玉 県	3%	3%	4%	4%	4%	4%

志願者の居住地を見てみると、2008年度の移転を境に、東京23区と千葉居住者が減少し、その代わり東京市部と神奈川居住者が増加しました。震災による志願者地域の縮小も沈静化し、志願者居住地域はほぼ定常化しています。今後は通学圏の多くを占める東京市部及び区部を中心にしつつも、隣接する神奈川県や埼玉県への認知度を高めたいと思います。特に矢野口駅発着スクールバス運行により通学が格段に便利になった川崎方面、また、ＪＲ埼京線、京浜東北線沿線のさいたま市周辺やＪＲ武蔵野線沿線地域の埼玉県方面にも積極的な学校ＰＲを進める予定です。

（４） 第一志望率

新入生アンケートで調査している第一志望率は、男子は前年比＋2.0%、女子は前年比－0.7%となりました。

第１回と第２回の合計の手続き率は男子が54.1%（前年比－5.0%）、女子が68.5%（前年比－1.3%）となりました。

なお、本校を第一志望でないと答えた生徒の第一志望校は、男子は例年通り早稲田実業、早稲田大高等学院、慶應普通部、開成、麻布、筑波大付属などの回答がありました。

女子も例年通り早稲田実業、慶應中等部、慶應湘南藤沢、雙葉、渋谷教育学園渋谷、渋谷教育学園幕張、桜蔭などの回答となりました。

	第一志望率	
	男子	女子
2023年	45.3%	61.8%
2022年	43.3%	62.5%
2021年	41.9%	56.1%
2020年	47.3%	57.1%
2019年	52.1%	57.7%
2018年	49.2%	52.2%
2017年	48.1%	71.1%

本校志望理由の順位にはほぼ変動はありませんでした。男女ともに「大学付属」が１位、続いて「校風」「施設・校舎」等が続きます。

志望理由ベスト５

		１位	２位	３位	４位	５位
2023 年	**男子**	**大学付属 (87.2%)**	**校風 (60.5%)**	**施設・校舎 (50.0%)**	**教育内容 (29.1%)**	**面倒見のよさ (25.6%)**
	女子	**大学付属 (82.0%)**	**校風 (69.7%)**	**施設・校舎 (46.1%)**	**教育内容 (36.0%)**	**交通の便 (20.2%)**
2022 年	男子	大学付属 (84.5%)	校風 (58.8%)	施設・校舎 (53.6%)	教育内容 (42.3%)	面倒見のよさ (25.8%)
	女子	大学付属 (85.2%)	校風 (65.9%)	施設・校舎 (61.4%)	教育内容 (35.2%)	面倒見のよさ (15.9%)
2021 年	男子	大学付属 (81.4%)	施設・校舎 (65.1%)	校風 (58.1%)	教育内容 (41.9%)	面倒見のよさ (23.3%)
	女子	大学付属 (80.6%)	校風 (69.4%)	施設・校舎 (56.1%)	教育内容 (33.7%)	交通の便 (23.5%)

（５） 受験者平均点

受験者平均点は、第１回では男子平均点が女子の平均点よりも、1.02点上回りました。教科別でみると、男子が上回ったのが算数・理科・社会の３教科、女子が上回ったのは国語の１教科でした。

第２回入試では、2009年度から一貫して女子平均点が男子の平均点を上回っています。連続で10点以上の差が生じていましたが、2019年度に1.95点、2020年度は3.94点と比較的落ち着きました。2021年度は5.15点、2022年度は5.55点の差となり、2023年度は差がやや広がり8.74点となりました。教科別では、女子が国語・算数・理科の３教科で男子の平均点よりも上回りました。

教科別受験者平均・合格者平均点の男女別比較

			国語	算数	理科	社会	合計
第1回	男子	受験者平均	58.41	58.49	46.96	48.90	212.76
		合格者平均	63.67	71.89	53.27	54.08	242.91
	女子	受験者平均	62.89	55.24	46.48	47.13	211.74
		合格者平均	69.98	73.99	53.69	52.32	249.98
第2回	男子	受験者平均	67.29	37.46	52.94	37.61	195.31
		合格者平均	73.90	55.88	57.85	42.48	230.10
	女子	受験者平均	74.22	38.91	53.63	37.30	204.05
		合格者平均	78.85	57.65	60.35	42.11	238.96

教科別受験者・合格者平均点とその差　（男女合計）

	教科	配点	受験者平均	合格者平均	差
第1回	国語	100	60.67	66.28	5.61
	算数	100	56.85	72.76	15.91
	理科	75	46.71	53.44	6.73
	社会	75	48.01	53.35	5.34
	合計	350	212.25	245.83	33.58
第2回	教科	配点	受験者平均	合格者平均	差
	国語	100	71.05	76.55	5.5
	算数	100	38.25	56.83	18.58
	理科	75	53.32	59.19	5.87
	社会	75	37.44	42.28	4.84
	合計	350	200.06	234.84	34.78

昨年と同様に、第１回、第２回入試ともに、「合格者平均－受験者平均」の値は、算数が最も大きくなりました。一方、他３科ではその差がそれほど大きくないことがわかります。なお各教科の得点状況と合格との相関関係を調査した入試分析からは、

①　「算数」ができないと合格は難しい。

②　「国語」「理科」「社会」は３科合計が合否を左右する。

という２点が明治中学合格へのポイントとしてあげられます。

【２】2024年度中学入試の出題方針

本校の入学試験は国語、算数、理科、社会の順番に行なわれ、基礎知識に加え、思考力・表現力を見る問題が数多く出題されます。

［国　語］

国語では読解力や表現力を見る作問を行っています。例年、説明文を中心にした長文問題を出題しています。長文問題では速読速解の力が求められますので、文章に読み慣れておく必要があります。また、これらの問題では読解力を見るだけでなく、要旨・主題・説明などを記述の形式で答えてもらい、表現力も見ています。文中のキーワードに注意して、自分の言葉を加えながら的確にまとめることが求められます。字数制限のある問題では、句読点も字数に含み、制限字数の８割以上は書くようにして下さい。問題文をよく読み、「何をきかれているのか」をよく考えて答えてください。部分点も見ていますが、ピントがずれていると得点にはなりません。また、記述問題中の誤字・脱字にも十分気をつけて下さい。句点のないものも減点対象になります。漢字は例年10問出題され、１問２点なので、意外と得点の差がついています。また、漢字の問題では画数やバランスの乱れがあった場合は不正解になりますので、ていねいに書いてください。語句に関する知識問題も例年出題しています。日頃から辞書をこまめに使い、正しい日本語を使う習慣をつけておいてください。

［算　数］

算数では受験生の計算力だけでなく、思考力を見る作問を行なっています。1は解答のみを記入する１行問題で、例年５つの小問が出題されています。１つの小問の配点（７～８点）が高く、合否を分ける問題になっていますので、慎重に解いてください。2から5

までの問題は、必ず「式と考え方」を書いて下さい。これは途中経過を見ることで、受験生の考え方を見ていこうという主旨で行なわれています。解答が不正解でも途中経過が正しければ、部分点が出ることもあります。「式と考え方」では、線分図や面積図、場合によっては方程式を使って説明していただいてもかまいません。それぞれの問題にはレベルに差がありますので、難度が高い問題に時間をかけ過ぎず、解ける問題をケアレスミスなく解けるよう、時間配分に十分注意して下さい。また、計算ミスで合否を分けることも多々ありますので、検算する時間を残しておくことをお薦めします。また、本校では入学後に計算検定を実施するなど計算力を重視しています。たかが計算と思わず日頃から練習するように心がけてください。

［社　会］

社会では基礎知識を問う作問と思考力・問題解決力を問う作問に大別することができます。地理、歴史、公民からほぼ均等に出題され、分野をまたがる問題も出題しています。一見難しそうに見えても、基礎知識がきちんと備わっていればできる問題が大半です。時事問題の出題もありますので、テレビや新聞などで、できるだけニュースなどに関心を持つことをお薦めします。また、思考力を試すため、教科書等で直接習っていないことをその場で考えさせる問題も出題しています。受験生全員が知らない事柄について、出題の文章や資料、地図などを手がかりに、自分で考えて解答を見つける問題です。また、漢字指定の問題はもちろんですが、それ以外の問題でも原則として小学校の教科書で漢字表記となっている人名、地名、できごとなどの用語は、漢字で答えてください。

［理　科］

理科では基礎知識だけでなく、思考力をみる作問をしています。物理・化学・生物・地学の各分野よりバランスよく出題しています。テレビや本を活用したり、実生活の中でも、自然科学への関心を持ったりするように努めてください。「なぜ？」と思う気持ちが理科の学習には一番大切です。さまざま知識は持っているだけでなく、整理し、使えるようにしてください。また、実験・観察は「結果がこうなる」と覚えるだけでなく、結果からわかることを考察できるようにしてください。このような理由から本校では、実験や観察をベースにグラフを読みとる問題、作図問題、計算問題、記述問題を出題しています。

【３】各教科の勉強方法

新入生アンケートによる「合格の秘訣となった勉強方法」を紹介します。別冊『Meiji Data Box 2023』の2～4ページをご参照ください。

【４】2024 年度中学入試のポイント

（１）募集人数・男女比（男女比１：１）

昨年度と同様、男女約150名（帰国生を含む）を募集します。第１回の募集人数は約90名、第２回は約60名となっていますが、移転後のクラス・定員増のため、１クラス35名の５クラス編成になるよう調整し、実募集人数は約175名となります。また、2008年の共学以降、全体の65～75％が男子、25～35％が女子になるよう合格調整していましたが、経年傾向として女子受験生の高得点者が多く、男女の合格ボーダーラインの差を少なくするために、2013年入試より、全体の55～65％が男子、35～45％が女子になるよう変更し、2020年度からは男女比１：１を目指して合格者を発表することになりました。ただし、そ

れでも合格最低点は男女で異なる場合があります。

（２）出願方法

Web出願システム（miraicompass）による出願です。ただし、帰国生出願（中学のみ）においては別途郵送による出願書類があります。

（３）合否判定

４教科の合計点で判定します。教科ごとの基準点(足切り点)はありません。合格最低点は例年60％程度となりますが、2023年度入試では、350点満点で第１回入試は男子221点（約63％）、女子233点（約67％）、第２回は男子212点（約61％）、女子222点（約63％）が合格最低点でした。追加合格者は、入学手続日の夕方以降、電話で連絡しますが、2023年度は女子７名の追加合格を発表しました。（2022年度は女子３名）

（４）２回受験優遇制度

第２回入試において、第１回入試受験者を対象にボーダーラインにおいて３点の優遇措置が受けられます。2023年度は優遇措置による合格者が６名（参考：2022年度は４名）でした。なお、第２回入試合格者のうち、約62%は第１回入試の受験者でした。

（５）帰国生優遇制度

２年以上継続して海外に在住し、入学２年前(４年生の３月以降)に帰国した場合５点の優遇が、５年以上継続して海外に在住し、入学１年前(５年生の３月以降)に帰国した場合10点の優遇が受けられます。居住国は問いません。2023年度入試では、第１回と第２回合わせて４名の出願者が該当しました。なお、募集定員は特に設けず、一般入試の枠内で行います。選抜方法は通常の４教科入試の結果に加点する形となります。

（６）合格発表

第１回、第２回とも合格発表予定時刻は入試当日の22時です。ただし、合否判定が終了次第発表します。

（７）延納制度

入学金以外の諸費用については延納ができます。延納期限は原則として併願校の合格発表日の翌日までとなります。延納を希望される方は、入学手続き時に延納の申請を行ってください。

高等学校

学校の入学試験には「こんな生徒たちに出会いたい」というメッセージが込められています。私たちも「基礎学力を持った」、「思考力・表現力が備わった」そして「本校で学びたいと思っている」生徒たちに出会いたいと願っており、それが実現できるような入試問題づくりを心がけています。

【１】2023年度高校入試の概況

（１） 昨年度入試結果との比較

	一般入試				推薦入試(除指定校)			
	2023年度		2022年度		2023年度		2022年度	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
志願者数	404	377	311	270	34	66	30	57
受験者数	373	356	290	262	34	66	30	57
合格者数	166	131	162	111	18	18	16	20
実質倍率	2.25	2.72	1.79	2.36	1.89	3.67	1.88	2.85
受験者平均点	146.07	148.58	153.23	151.94	75.21	79.39	78.77	79.04
合格者平均点	179.23	185.98	177.32	182.65	87.28	96.17	88.69	89.30
合格最低点	152	160	151	156	77	84	76	75

一般入試の志願者は781名（男子404名、女子377名）で昨年と比べ34.4%増加しました。一方、推薦入試は100名（男子34名、女子66名）でこちらは昨年と比べ14.9%増加しました。指定校からは7名（男子2名、女子5名）の出願がありました。

近年の志願者動向には、比較的大きな増減に特徴があります。高校受験における公立志向の高まりの渦中にあって、本校にとって誤解のない学校評価により、ミスマッチのない第一志望者を安定的に確保することが課題と考えています。

（２） 推薦入試の男女比調整

2013年度より、推薦入試の男女調整を「指定校を除き男女比1：1にする」ことを、2020年度からは一般入試でも「男女比1:1」にすることを入試基準として運用することになりました。2023年度推薦入試では、1：1を基準に判定した結果、「男子18名、女子18名」を合格としました。推薦入試は適性検査の150点満点に面接点を加算して総合的に判断するため、男女の点数差は一概には判断できませんが、適性検査のみの合格最低点の男女間の差は、女子が点上回りました。

（３） 一般入試の男女比調整

一般入試では女子受験生の学力レベルが上昇し、男女の競争倍率の差が大きく開き、合格最低点の男女差も拡大する傾向が顕著となりました。そこで2013年度より、それまで男子７：女子３としてきた男女比を６：４にし、2020年度入試からは男子１：女子１の割合に変更しています。入学手続率による変動範囲を±５％と想定して、合格者を発表していきます。

2023年度の一般入試では、297名（男子166名、女子131名）を合格者として発表しました（うち、男子26名、女子9名を追加合格者としています）。男女の合格最低点は女子が８点上となりました。また、男女間の実質倍率の差も、前年度が0.57であったのに対し、2023年度も0.47と同程度に推移しています。

（４） 志願者居住エリア

志願者数地域別比較　　2023年度のみ【高校一般入試：推薦入試】で示してあります。

地　域	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
東京都区部	40%：25%	39%	37%	40%	37%	33%
東京都市部	29%：18%	30%	33%	31%	30%	32%
神奈川県	16%：30%	18%	16%	18%	19%	19%
千 葉 県	3%：3%	2%	1%	2%	3%	3%
埼 玉 県	11%：20%	10%	13%	9%	10%	11%

志願者の居住地をみてみると、2008年度の移転を境に東京23区および千葉居住者が減少し、東京市部と神奈川が増加してきました。今後は、通学圏の中心を占める東京区部･市部を中心にしつつも、矢野口駅発着スクールバス運行により通学が格段に便利になった川崎方面などの神奈川県、ＪＲ埼京線・京浜東北線沿線のさいたま市周辺やＪＲ武蔵野線沿線の埼玉県方面に、積極的に学校ＰＲを進めていくことが課題です。

（５） 第一志望率

新入生アンケートで調査している第一志望率について、本年度は男子が前年比－13%、女子は前年比＋1.8%となりました。

本校を第一志望でないと答えた入学者の第一志望校は、男子が早大学院、早稲田実業、早大本庄、慶應義塾、慶應志木、都立西などでした。女子は早大本庄、慶應女子、青山学院、都立西、都立日比谷、都立国立、県立横浜翠嵐などでした。

	第一志望率	
	男子	女子
2023年度	45.1%	61.8%
2022年度	58.1%	60.0%
2021年度	65.7%	59.6%
2020年度	50.0%	60.3%
2019年度	52.9%	65.9%
2018年度	54.5%	63.0%
2017年度	59.6%	69.4%
2016年度	57.5%	59.6%

志望理由ベスト５

		１位	２位	３位	４位	５位
2023 年度	**男子**	**大学付属 (94.1%)**	**施設・校舎 (58.8%)**	**校風 (56.9%)**	**教育内容 (41.2%)**	**交通の便 (29.1%)**
	女子	**大学付属 (92.7%)**	**施設・校舎 (65.5%)**	**校風 (56.4%)**	**教育内容 (49.1%)**	**交通の便 (21.8%)**
2022 年度	男子	大学付属 (93.0%)	施設・校舎 (53.5%)	校風／教育内容 (48.8)	交通の便 (23.3%)	面倒見のよさ (13.9%)
	女子	大学付属 (92.7%)	校風 (56.3%)	施設・校舎 (52.7%)	教育内容 (40.0%)	交通の便 (16.3%)
2021 年度	男子	大学付属 (94.3%)	施設・校舎 (60.0%)	教育内容 (57.1)	校風 (48.6%)	交通の便 (25.7%)
	女子	大学付属 (91.5%)	施設・校舎 (57.4%)	校風 (44.7%)	教育内容 (42.6%)	交通の便 (17.0%)

上の表は、毎年新入生に調査しているアンケートの「本校を選んだ決め手は何ですか」を集計したものです。2008 年度の移転当初は男女とも第１位、第２位の順に「新校舎」「大学付属」でしたが、やがて「大学付属」「施設・校舎」に落ち着いてきました。

（６） 教科別受験者平均点の男女別比較

教　科	一般入試			推薦入試（除指定校）		
	配　点	男子	女子	配　点	男子	女子
国　語	100	43.49	48.92	50	23.88	26.94
数　学	100	48.96	45.76	50	22.50	21.79
英　語	120	53.62	53.91	50	28.82	30.67
合　計	320	146.07	148.58	150	75.21	79.39

本年度の一般入試受験者平均点は、男子が数学で 3.2 点上回り、女子が国語で 5.43 点と英語で 0.29 点それぞれ男子を上回りました。推薦入試では、男子が数学で 0.71 点女子を上回り、女子は国語で 3.06 点と英語で 1.85 点男子を上回る結果となりました。

（７） 一般入試合計点と３科目の相関関係

教科別受験者・合格者平均点とその差の男女比較

		国語	数学	英語	合計
配　点		100	100	120	320
男子	受験者平均	43.49	48.96	53.62	146.07
	合格者平均	48.20	63.23	67.80	179.23
	差	4.71	14.27	14.18	33.16
女子	受験者平均	48.92	45.76	53.91	148.58
	合格者平均	55.19	59.95	70.83	185.98
	差	6.27	14.19	16.92	37.4
男女合計	受験者平均	46.14	47.40	53.76	147.30
	合格者平均	51.29	61.79	69.13	182.21
	差	5.15	14.39	15.37	34.91

「合格者平均点－受験者平均点」の差は数学で大きい状況が続いています。2021 年度に差が急拡大した英語が 2023 年度も約 15 点の差となりました（2021 年度は 12.88 点、2022 年度は 11.35 点）。各教科の得点状況と合格との相関関係を調査した入試分析からは

①「英語」「数学」ができないと合格は難しい。

②「国語」は受験者平均点以上で合格可能性が安定する。

という２点が明治高等学校合格へのポイントとしてあげられます。

【２】2024年度高校入試の出題方針

本校の入学試験は国語・英語・数学の順番に行われ、基礎知識に加え、思考力・表現力を見る問題が数多く出題されます。また、３教科それぞれの出題方針は一般入試（学力検査）も推薦入試（適性検査）も同じです。学力検査の問題量を減らして難易度を易しくしたものが適性検査だとお考えください。また、適性検査は解答時間が短いこともあり、学力検査より基礎的な出題が多くなる教科もあります。

［国　語］

国語では読解力や表現力を見る作問を行なっています。例年、説明文や随筆を中心にした長文問題を出題しています。長文問題では速読速解の力が求められますので、文章に読み慣れておく必要があります。また、これらの問題では読解力を見るだけでなく、要旨・主題・説明などを記述の形式で答えてもらい、表現力も見ています。文中のキーワードに注意して、自分の言葉を加えながら的確にまとめることが求められます。字数制限のある問題では、句読点も字数に含み、制限字数の８割以上は書くようにして下さい。問題文をよく読み、「何をきかれているのか」をよく考えて答えてください。部分点も見ていますが、ピントがずれていると得点にはなりません。また、記述問題中の誤字脱字にも十分気をつけて下さい。句点のないものも減点対象になります。漢字は例年10問出題され、１問２点なので、意外と得点の差がついています。また、漢字の問題では画数やバランスの乱れがあった場合は不正解になりますので、ていねいに書いてください。語句や文法に関する知識問題も例年出題しています。日頃から辞書をこまめに使う習慣を身につけておいてください。

［英　語］

英語では運用力を見る問題を中心に出題しています。問題数が多いので、手際よく解答することが必要です。読解問題は例年40点ほど出題し、少し長めの文章を読んでもらいます。英文を速く正確に理解する力や文脈から読み取る力を見ています。リスニング問題は35点程度出題します。2016年度から「聞く」をより重視した出題としています。全体的な出題レベルは英語検定の準２級くらいです。また、文法や語法の問題では正確な知識が求められます。単語や発音の問題では基礎的な語彙力が必要となります。本校では英語検定やTOEICも指導の目標にしているため、入試問題もそれらを意識した作問となっています。本校の過去問題集だけでなく、できるだけ英語検定の問題にも取り組んでください。その場合、英語検定の準２級の問題が７割程度できる力を身につけることが望ましいと考えています。

［数　学］

数学では受験生の計算力だけでなく、思考力を見る作問を行なっています。1は解答のみを記入する問題で、例年５つ程度の小問が出題されています。１つの小問の配点(７～８点)が高く、合否を分ける問題になっていますので、慎重に解いてください。2から5までの問題は、必ず「途中の式や説明」を書いて下さい。これは途中経過を見ることで、受験生の考え方を見ていこうという主旨で行なわれています。解答が不正解でも途中経過が正しければ、部分点が出ることもあります。総合問題が中心となっていますが、各問題にはレベルに多少差があります。問題数が少ない分、全体的に１問の配点がたいへん高くなっています。１問１問をていねいに解いてください。難度が高い問題に時間をかけ過ぎず、解ける問題から手をつけるようにしてください。また、計算ミスや勘違いによるミスで合否を分けることも多々ありますので、確かめの時間を残しておくことをお薦めします。

【推薦入試】

一般入試の出題方針と変わりありません。ただし、試験時間が短いこともあり、一般入試より基礎的な出題が多くなる教科もあります。

【３】各教科の勉強方法

新入生アンケートによる「合格の秘訣となった勉強方法」を紹介します。別冊の「Meiji Data Box 2023」の６～７ページをご参照ください。

【４】合否判定と推薦出願基準について

(１)合否判定

ア　一般入試

３教科の合計点で判定します。教科ごとの基準点(足切り点)はありません。合格最低点は例年５～６割となりますが、2023年度入試では320点満点で男子152点（約48%）、女子160点（50%）でした。また、推薦入試からの再受験者はボーダーラインにおいて５点の優遇措置が受けられます。推薦入試受験者からの再受験者は51名、合格者は４名でした。そのうち優遇措置による合格は2023年度はおりませんでした。（2022年度は男子０名、女子４名でした。）追加合格者を出す場合は、入学手続日の夕方以降電話で連絡します。2023年度は手続き日と、都立高校合格発表日

翌日以降に実施し、男子26名、女子９名の合計35名を追加合格としました。（参考：2022年度は男子28名、女子10名）

イ　推薦入試

適性検査（国語、数学、英語）と面接の結果から総合的に判定します。適性検査は各教科50点満点、時間は各教科とも40分です。面接は受験生１名に対し面接官２名の面接を２回行います。なお出願の際の５段階評定、課外活動実績等はあくまで出願資格であり、合否には影響しません。合否判定は次のように行います。

①面接評価が特に悪い受験生を除外します。

②面接評価の高い順に序列化し、適性検査の結果を加味しながら、男女別に実募集人数のおよそ40％までを合格者とします。

③「②」での合格者を除き、適性検査の成績順に序列化し、男女別に実募集人数のおよそ60％までを合格者とします。

（２）2024年度推薦入試出願資格　※詳しくは2024年度入学試験要項をご覧ください。

次の４つの要件を全て満たし、在学する中学校長の推薦を受けた者。

ア　2024年３月に中学校卒業見込みの者、または中等教育学校の前期課程を修了する見込みの者で、原則として保護者のもとから通学できる者。

イ　明治高等学校への入学を第一志望とし、入学後の勉学に明確な目的と熱意を持ち、入学後他の生徒の模範となり得る者で、合格した場合は、本校への入学を確約できる者。

ウ　中学校入学後の欠席日数の合計が、１５日以内であること。

エ　中学校在学中、Ａ．学業　又はＢ．課外活動（学外活動を含む）のいずれかの分野で以下の条件を満たした者。（ＡかＢの選択）

但し、５段階評定は、各都道府県の「高等学校等入学者選抜実施要綱」に基づいて中学校長が作成した調査書の評定もしくは、その５段階評定への換算値とする。

Ａ．学業

中学校第３学年５段階評定の９教科の合計が３８以上であり、そのうち５教科（国語・社会・数学・理科・英語）の合計が２２以上の者で、かつ、９教科５段階評定に２以下が無い者。

Ｂ．課外活動（学外活動を含む）

中学校第３学年５段階評定の９教科の合計が３６以上であり、そのうち５教科（国語・社会・数学・理科・英語）の合計が２０以上であり、かつ、９教科の５段階評定に２以下が無い者で、次に挙げる生徒会・運動・文化などの課外活動（学外活動を含む）のいずれかの分野において、特に顕著な活躍をした者。

－課外活動（学外活動）－

① 生徒会活動関係　生徒会の全会員投票により選出された、生徒会長（１期以上）もしくは副会長等の次席の生徒会役員（２期以上）を務めた者。

② 運動関係　都道府県大会において正選手としてベスト８入賞、または全国・関東レベルの大会に正選手として出場した者。

③ 文化関係　　都道府県レベル以上のコンクールやコンテスト等において入賞以上の成績を上げた者。

※Ｂ.課外活動(学外活動を含む)で出願される場合には、事前の資格審査を電話にて受け付けています。詳しくは2024年度入学試験要項をご覧ください。

＜2021 年度・2022 年・2023 年度入試では、コロナ禍の諸状況を鑑み、推薦入試Ｂ出願において、下記の通りといたしました。＞

推薦入試出願資格ウ、エのＢ出願について、以下の特例を設ける。
新型コロナウィルス感染拡大の影響で、受験生本人の責めに帰さない理由により基準を満足できない場合、在籍校長の署名・校長公印により、基準を満たす見込みであった旨が証明できるときは出願を認める。また、これにより合否に不利益になることはないものとする。
以上

【５】2024年度高校入試のポイント

（１）募集人数
明治中学校からは約181名が内部進学の予定です。実募集人数は一般入試約60名、推薦入試約40名(指定校推薦を含む)です。指定校推薦は本校近隣の調布市、三鷹市の公立中学校を対象に募集しています。指定校推薦の有無などについては、所属する中学校長にお尋ねください。

（２）出願方法
Web出願システム（miraicompass）による出願です。加えて調査書等の提出も必要になります。

（３）男女比調整
男女比調整については、推薦入試では指定校を除き男女ほぼ１：１になるように合格調整します。一般入試についても、入学者の男女比が１：１になるように合格者を発表していきます。

（４）合格発表(一般入試)
一般入試の合格発表予定時刻は入試当日の22時です。ただし、合否判定が終了次第発表します。本校ホームページで行います。なお、入学手続きを終了した段階で手続き者が予定人数に達しなかった場合、追加合格を出す場合があります。その場合は電話で連絡いたします。

（５）合格発表(推薦入試)
推薦入試の合格発表は１月23日９時に本校ホームページで行います。入学手続きは１月25日に行い、延納や入学辞退はできません。

（６）特待生合格(一般入試)
一般入試において入試成績上位者(上位50位以内)については、特待生合格として発表します。入学諸費用を完納した場合に限り、入学後に審査のうえ６名程度に入学金相当額を

給付します。

（７）優遇制度（一般入試）

一般入試において推薦入試受験者を対象に、ボーダーラインにおいて５点の優遇措置が受けられます。

（８）延納制度（一般入試）

一般入試では入学金以外の諸費用については延納ができます。延納期限は併願校の合格発表日の翌日までとなっています。延納を希望される方は、入学手続き時に延納の申請を行ってください。

第７章　本校をもっと知っていただくために ―― 将来を一緒に考える学校

お子さまの大事な６年間、３年間を過ごす学校ですから、不本意入学やミスマッチを避け、お子さまに合った学校をじっくり選んでいただきたいと考えています。そして、明治を知って、見て、感じて、好きになって第一志望で受験してもらうことを願っています。意中の学校に入学することこそが、学校生活の最大の潤いにつながるからです。ぜひ“明治ファン”になって受験してください。

【１】こんなご心配はありませんか？

受験に合格しても「こんなことになったら困るな」という不安を持たない保護者の方は、おそらくいないでしょう。そこで、ひょっとしたら入学後に起こるかもしれないことに関するご質問にお答えします。

（１）模試の偏差値と入学後の成績の関係

模擬試験の偏差値があまり高くなく、もし合格しても学校の勉強についていけないのではと心配される方がいます。追跡調査などのデータを見ると、偏差値と入学後の成績はあまり関係がありません。本校の入学試験で合格点に達したということは、本校での勉強に十分ついていけるという証しです。中学生、高校生それぞれの学習方法に切り替え、まじめにこつこつ勉強すれば、成績が伸びていくことは実証されています。

（２）中学入学前の英語教育は必要？

「明治中学校・明治高等学校では英語教育に力を入れているようだが小学校では英語の勉強をほとんどしていないので心配」だと感じる方もいます。明治中学校では、週７コマの授業で、入学後にしっかりと基礎から教育していくのでご安心ください。ただ、入学したらレベルの高い教科書を使って、週７回のペースで進んでいきますから、しっかりと勉強に取り組んでください。当然ながら、入学前の取り組みよりも、入学後の取り組みのほうが圧倒的に重要です。

（３）万が一、経済的困難になったら

経済状況の急変により、経済状況の急変などにより予期せぬことが起こることも考えられます。そうした場合に備え、本校では奨学金制度が用意されています。奨学金には第１種と第２種があり、第１種に認定されると授業料相当分が、第２種の場合は授業料の１／２相当額が給付されます。奨学金は、いずれもご家庭の経済状態、本人の成績・人物を考慮して決定されますが、それらが給付型（返還義務がない）である点が本校の奨学金制度の大きな特長です。

参考資料　本校の主な奨学金制度

（１）修学支援奨学金　中高共通

目　的　本校へ入学後、家計急変等の経済的な理由によって修学が困難になった者に対し、修学上の便宜を図ることを目的とした奨学金制度。

給付額　第１種：授業料相当額

第２種：授業料１/２相当額

（２）海外語学研修奨学金　中高共通

目　的　本校主催の海外語学研修（任意参加）参加者のうち、成績・人物ともに優秀な者に対し、参加費用の負担を軽減するとともに、課外の語学教育活動への参加を奨励し、語学力の向上に寄与することを目的とした奨学金制度。

給付額　第１種：２０万円
　　第２種：１０万円

（３）特待生奨学金　中高共通

目　的　年間を通じて成績・人物ともに優秀であった者および学業以外の分野において特に顕著な功績を挙げ、本校の名声を著しく高めた者を賞し、さらなる向上を奨励することを目的とした奨学金制度。

給付額　１２万円

（４）高等学校入学時特待生奨学金　高等学校のみ

目　的　高等学校入学試験（高校一般入試）において、特に優秀な成績を収めた者に対して、学費の負担を軽減するとともに、学業を奨励することを目的とした奨学金制度。

給付額　入学金相当額